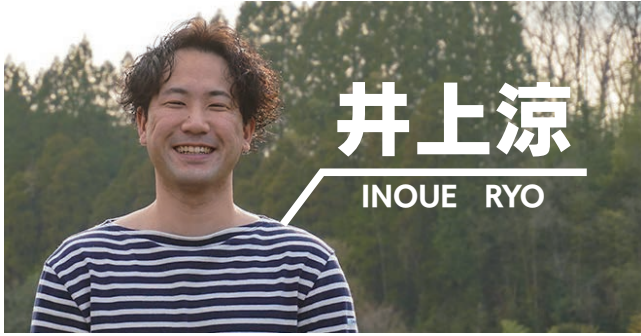


# 地域おこし協力隊 活動紹介

地域おこし協力隊の井上涼です。活動開始から1年半が経ちましたので、今回は私のこれまでの活動についてお伝えします。

## PROFILE



- 出身地 広川町
- 任期開始時期 2020年1月、福岡市から転入
- 趣味 サッカー

広川町で生まれ育ち、大学進学のために大阪へ移り、そこからイギリス、東京、アメリカで暮らす。7年間の都市部・海外での生活経験から「故郷広川町でも若者がより輝ける場所をつくりたい」と思い、協力隊としてUターン。着任当初は「まち子のおやつ」で研修を受けつつ、地域資源について学び、現在は子どもの居場所づくりに取り組む。

## 最近の活動報告

今年7月、広川町ものづくり研究所 Hodoku で、夏休み中の子どもたちを対象に、プログラミングやSDGsについて学ぶイベントを開催しました。コロナ禍で小規模な開催となりましたが、町内外から延べ16人の小中学生が参加。久留米工業大学の学生も指導者として手伝ってくれました。なかには、イベントで作ったゲームに自ら新しい機能を追加した小学生もあり、子どもたちの「学びたい」「出来るようになった」という気持ちを強く実感する機会となりました。



## 身近に多様な選択肢があって、自由に挑戦できる社会にしたい



現在は継続的な学びの場となる探究型の学習教室「Irodori Study Lab」の立ち上げに取り組んでいます。ここは、子どもたちが地域や世界の人・モノと触れ合いながら、興味をもったテーマを徹底的に調べ、自分の将来を考える場です。

私がかっこいい大切にしているのは、「子どもたちは皆、自らやりたいことを見つけ、全力で取り組む力をもっている」ということ。やりたいことが見つかる、人生を主体的に生きることができ、笑顔になれる。その人が笑顔になれば、その人の周りも笑顔になる。これを連鎖させることで、地域が豊かになっていくと本気で思っています。この取り組みに興味を持った人はどなたでも大歓迎ですので、この機会にぜひ一度足を運んでみてください。



irodori Study Lab  
年内12月まで無料体験実施中!  
※要予約  
Tel : 070-8952-4707 (井上)  
Mail : irodoristudylab@gmail.com



Instagram



LINE

地域おこし協力隊の活動報告は随時広報紙に掲載します。



バドミントン男女監督と審判員の皆さん  
(中山さんは写真左から2番目)

## 審判員としてパラリンピックに参加

中山健一さん

9月1日(水)～5日(日)、国立代々木競技場で行われた「東京2020パラリンピック競技大会 バドミントン競技」に、中山健一さん(吉常区)が審判員として参加しました。審判員は日本人70人、外国人30人で構成され、九州地区からは中山さんほか3人が選抜されました。5日間、17試合にラインズマン(線審)として参加した中山さんは「緊張の連続でしたが、すばらしい貴重な体験ができました。まだまだ障がい者スポーツへの理解や関心は高くありません。今回パラリンピックに参加した経験を活かし、多くの皆さんへ障がい者スポーツへの理解を深めていきたいです」と話していました。

## 久留米絣で七五三

日野詩織さん

昨年の秋に「七五三を久留米絣で……」と思い立った久留米市在住の日野詩織さん。ひろかわ藍彩市場で久留米絣の織元「山村かすり工房」、さらに「山村かすり工房」から「山藍」の紹介を受け、娘さんの着物を手織りすることにチャレンジしました。約半年かけて織り上げ、バックや髪飾りなども久留米絣で手作りました。

実際に完成した着物を着た娘さんは「お姫さまみたいで可愛い」と大喜び。着心地の良さもあり、夕方まで脱ぎたがらなかったとのこと。思い出深い七五三になった日野さんと娘さんは、またお正月に着ることを心待ちにしているそうです。



## 災害に備え訓練実施

広川町消防団



10月10日(日)～17日(日)、町内各地で広川町消防団が各種災害を想定した訓練を行いました。

今回の訓練は、火災を想定した中継訓練や実地訓練、水利の確認など、各分団がそれぞれ考えた内容で実施。第1分団と第5分団は、小椎尾区で広川消防署の指導を受けながら、山火事を想定した中継放水訓練を行いました。女性消防団は広川消防署員を講師に迎え、町民交流センター「いこっと」で応急手当(止血法・固定法)の講習を実施。「けがをしたときになぜ止血や固定が大事なのかや」骨折した腕や足を固定するとき、三角巾がなくてもレジ袋や傘などで応用できること」などを学びました。